

曲線部における大型巨石ブロック積の施工

広島県土木施工管理技士会
藤原メセナ建設株式会社工務部
現場代理人

橋本 寿 晴[○]

Toshiharu Hashimoto

百田 裕

Hiroshi Hyakuta

1. 適用工種

河川公園における護岸ブロック積（大型巨石ブロック）工のすり付け部の施工

2. 改善提案

大型巨石ブロックの製品と製品の間をどの様に仕上げるか。平面的に見えないような改善策が必要となった。

間の場所打ちコンクリート部を立体的に仕上げるために巨石を後から張り付けることとした。

3. 従来工法の問題点

本工事は小規模の親水公園で、河川は左右への曲線を取り入れた設計となっていた。護岸は大型ブロック（巨石タイプ）の景観製品を使用するようになっていたので、曲線部は製品と製品のつなぎを場所打ちコンクリートで施工することとなり、平面的な仕上がりになるようになっていた。

4. 工夫・改善点

巨石ブロックと巨石ブロックと間の場所打ちコンクリート部分を型枠組立しコンクリートを打設する。脱枠後、先に巨石部だけを工場製作しておいた製品を打設面に張り付ける。次にコンクリート打設面に接着剤を塗布し、モルタルコンクリートを人力にて凹凸があるように塗りつけ仕上げる。

このように、製品を積み重ねるだけでなく凸部の製品だけを製作し、組み合わせることにより景観性を出していく方法を採用した。

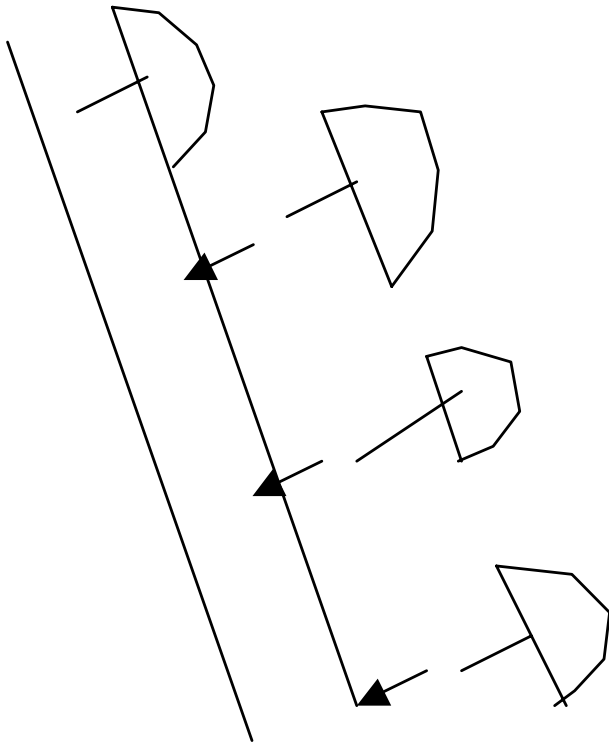


図-1 施工略図

5. 効果

写真のように製品とすり付けの部分に違和感を抱かない施工ができたと思う。曲線部が自然に見えるように仕上げる事ができた。



写真-1 河川公園全景

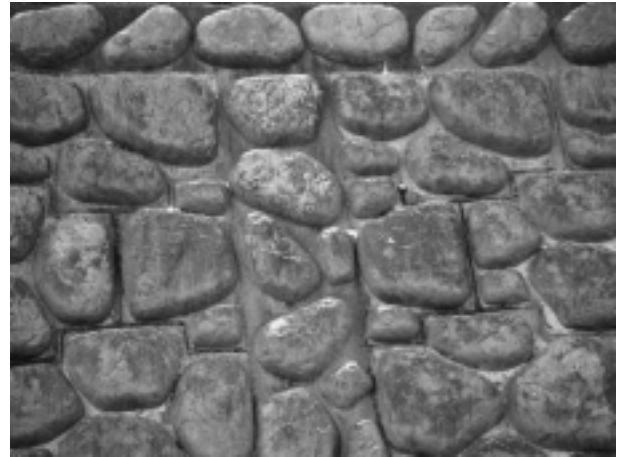


写真-2 巨石拡大写真

6. 適用条件

景観製品などの凸部がある商品を使用するすり付け部分

7. 採用時の留意点

巨石だけでなく小さい石も製作し、狭いすり付け部分も石を張り付けていくようにする。また、巨石の養生期間を十分に確保するために計画的に製作しなくてはならない。できるだけ施工図を作成すると良いと思う。